

小学校2年生の生活科「町探検」におけるケータイの活用 (1): 学習活動はどう展開されたか

○稲垣成哲^A, 黒田秀子^B, 竹中真希子^C, 大久保正彦^A, 出口明子^D
INAGAKI, Shigenori^A, KURODA, Hideko^B, TAKENAKA, Makiko^C,
OHKUBO, Masahiko^A, DEGUCHI, Akiko^D

^A 神戸大学発達科学部, ^B 神戸大学発達科学部附属住吉小学校/神戸大学大学院

^C 大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター, ^D 神戸大学大学院/日本学術振興会特別研究員

【キーワード】ケータイ, clippicKids, 生活科, 授業実践, 情報収集, 情報共有

1. はじめに

筆者らは、分散環境で実施されるフィールドワークにおいて、学習者の情報の収集と共有を支援するシステム“clippicKids”を開発し2002年度から、小学校の実践に導入してきている（例えば、稲垣ら、2003；大久保ら、2004；竹中ら2005）。

“clippicKids”は、ケータイのカメラで撮影した写真をメールに添付して特定のアドレスに送信すると、インターネットのWebページに送信した写真の一覧を自動的に作成するシステムである。

本研究では、このシステムを導入して実施した小学校2年生活科の「町探検」の単位について、その概要を報告する。

2. 実践授業の概要

上述のシステムを導入した「町探検」の実践授業は、小学校2年生の1クラス(39人)を対象として、生活科の単位「すみよし山手ツアーガイドになろう」で実施された。期間は、2005年5月25日～7月20日(計32時間)であった。この単位では、2年生の児童が、対象となった小学校のある住吉山手と呼ばれる地域のことについて、1年生に紹介するためのガイドブックの作成を目標に、ケータイを使った取材活動を展開した。

図1には、取材活動の様子を示している。取材活動は2回行われた。1回目の取材では、住吉山手を3つのエリアに分け、それぞれのエリアを4～5のペアが担当して網羅的に予備調査した。1回目の取材後、図2に示すようなWebページ上で写真を



図1 ケータイを利用した町の取材活動

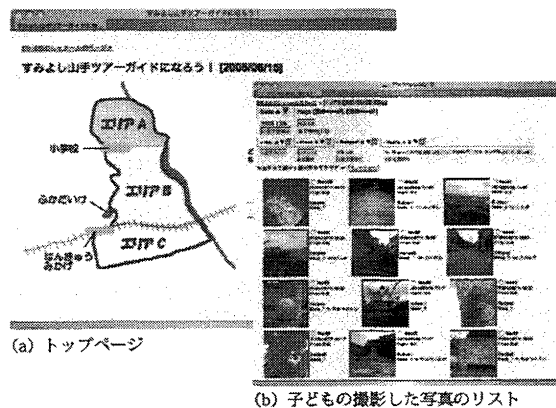


図2 本授業のWebページ

(a) のトップページには、「町探検」の全エリアが表示される。A・B・Cの部分エリアは、それぞれがクリック可能になっており、たとえば、エリアBをクリックすると、(b) に示すようなエリアB担当の子どもが撮影した写真のリスト表示画面に移行できる。

共有しながらクラス全体で編集会議を行った。2回目の取材では、掲載する項目について、より具体的に詳細な取材活動を実施した。取材終了後は、Webページから印刷した写真に、取材先でインタビューした情報等を書き込んでガイドブックを作成し、1年生への「お知らせ会」を開催した。

3. おわりに

ケータイはインフラも整備されており、野外調査のためのツールとして有効なものである。本研究の事例は、ケータイと“clippicKids”とを併用することで、モバイルツールが小学校低学年における校外学習を強力に支援することを示している。

附記

本研究は、平成18～21年度科学研究費補助金基盤研究(A)(課題番号:18200048, 研究代表者:稲垣成哲)、および、財団法人電気通信普及財団平成18年度研究助成(代表:竹中真希子)の援助を受けている。

引用文献

- 稲垣成哲ら(2003)日本科学教育学会年会論文集27, pp.157-158.
大久保正彦ら(2004)日本教育工学会論文誌, 第28巻 Suppl., pp.189-192.
竹中真希子ら(2005)日本教育工学会論文誌, 第29巻, Suppl., pp.189-192.